



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

#### Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

LOJPR08/14- No.119

## プレスリリース

### 史上最高の収穫、しかし問題は前途に待ち受ける

#### 金融危機が農業市場に打撃をあたえる

2008年11月6日、ローマー世界の穀物生産は高値により作付け面積が大幅に広がり、またおおむね気候条件が良かったこともあり、今年新たに記録更新が予想される、とFAOは6日、年二回発行の農産物出版物である最新の「**食料見通し**」で述べた。世界の穀物生産の予測は、短期的な消費を満たすことができるとともに、かなり枯渇している世界の在庫をある程度補充することができるの見通される。

しかしFAOは現在の金融危機が開発途上国を含む多くの国の農業部門にマイナスの影響を与えると警告を発した。

今年の史上最高の穀物の収穫と最近の食料価格の下落は、誤った安心感を与えてはならない、と報告書の主な著者の一人であるコンセプシオーネ・カルペは述べた。「たとえば、もし現在の価格の不安定さと流動性をめぐる状況が2008／09年にも続くとなれば作付けと収穫は影響を受ける可能性があり、新たな価格上昇が2009／10年に起こるかもしれない。最近起こったものより更にひどい食料危機を引き起こすことになるかもしれない」とカルペは述べた。

「ここ数ヶ月の金融危機は価格の下落を増幅し、金融市場の引き締めに貢献し、来年の見通しを更に不確実なものにした。そのため多くの生産者は非常に保守的な作付けの決定を採用している」とカルペは述べた。

報告書は穀物生産の回復の大部分は農民が価格高騰に対応するのに有利な立場にあった先進国で起こったことを強調している。開発途上国では逆に農業部門の供給側の制約で価格高騰に対応する能力に大きな制限があった。

#### 貧しい人への影響

2007／08年の急激な食料価格上昇は世界の栄養不足人口数を推定9億2300万人に増加させた。国際農産物価格の下落はほとんどの低所得国ではまだ国内食料価格の下落という形で反映されていない。「現在の世界経済問題の結果として食料摂取量を減らしたり飢餓人口が更に増える現実の危険がある」とカルペは述べた。

#### 長期的な課題

報告書では、世界の農業は緊急に対応されなければならない深刻で長期的な問題と課題に直面しているという。これらには土地や水の制限、農村インフラや農業研究に対する低い投資、農場渡し価格と比較して高額な農業資材、そして気候変動への対応がほとんどみられないことが含まれる。

2050年までには90億人以上になるとされる世界の人口(現在はおおよそ60億人)を養うためには、世界の食料生産は2050年までにおおよそ2倍にならないといけない。

人口の増加は主に開発途上国で予想されており主に都市部で起こるとされている。農村部での労働力は減り、もっと生産性をあげなければならない。農業、機械、トラクター、かんがい用のポンプ、収穫コンバインなどへの投資の増加が必要で、より技能を持ち、より良く教育された農民およびもっと効率の良い供給システムが必要となる。

英文URL <http://www.fao.org/news/story/en/item/8271/icode/>